

## 論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: Interannual Changes in the Prevalence of Intimate Partner Violence Against Pregnant Women in Miyagi Prefecture After the Great East Japan Earthquake: The Japan Environment and Children's Study

和文タイトル: 東日本大震災後の宮城県被災地域における妊婦へのドメスティックバイオレンスの経年変化

ユニットセンター(UC)等名: 宮城UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Journal of Interpersonal Violence

年: 2019 月: 卷: 頁:

筆頭著者名: 田上可桜

所属UC名: 宮城UC

目的:

東日本大震災後の、宮城県被災地域における妊婦へのドメスティックバイオレンス(DV)の経年変化を調査した。

方法:

2011年6月から2014年5月までの79,222人の妊婦のデータを用いて、宮城県の沿岸北部、沿岸南部、内陸部での身体的および精神的DVの頻度を、宮城県以外の全国データと比較して経年的に解析した。

結果:

宮城県沿岸南部での妊婦への精神的DVの頻度は、2011年は全国に比較して高かったがその後減少傾向にあった。(2011年19.4%、2012年13.1%、2013年13.3%、trend  $p = 0.04$ )。宮城県沿岸北部での妊婦への身体的DVの頻度は、2011年は全国に比較して高かったがその後減少傾向にあった。(2011年2.7%、2012年1.5%、2013年1.3%、trend  $p = 0.03$ )。しかし、宮城県内陸部では、いずれも高いままだった。

考察:(研究の限界を含める)

震災前のデータはないので、震災前後の比較をすることはできなかった。

結論:

東日本大震災後、被災地では妊婦へのDVの頻度が高いことが示唆された。また被災地域によっても、その経年変化が異なることが示された。このことを念頭に置いて、適切なサポートと初期段階からの長期的なフォローアップが必要である。